

ノ閣議ノ上上裁ヲ經ヘキモノト閣議決定  
相成然ルヘシ

陸軍海軍兩者ハ通牒

陸海軍現役衛生部將校相當官ニシテ  
日本赤十字社本社附屬病院ノ院長若  
ハ副院長局ヲレトスル者ニ許可ヲ與フルハ  
豫メ閣議ノ上上裁ヲ經ヘキモノトス  
右ノ通牒決定相成候條此般及御  
通牒候也

八月五日

内閣書記官長

陸甲三五

明治四十二年七月二十七日

左

濟

内閣總理大臣

法制局長官

外務省

大藏省

海軍省

文部省

逓信省

内務省

陸軍省

司法省

農商務省

別紙陸海軍兩大臣請議臨時軍用

氣球研究會官制制定ニ關スル件

ヲ審査スルニ軍用輕氣球ハ目下

歐米諸國ニ於テ大ニ研究ヲ重キツ

十二

法制局



ツアリテ其ノ作戰、關係スル所モ亦頗  
ル大ナリ依テ學術、堪能ナル者ヲ  
集メテ研究會ヲ組織シ以テ之カ研  
究ヲ為サムトスルモノニシテ相當ノ  
儀ト思考ス依テ請議ノ通閣議  
決定セラレ可然ト認ム但シ呈案  
付箋主務部協議済

追テ本件ニ要スル經費ハ本年度  
ニ於テハ陸海軍軍事費中ヨリ  
差繰リ支辨来年度以降ハ陸海

軍所屬諸費目中ヨリ差繰リ豫算  
ニ計上ノ見込

勅令案

呈案付箋ノ通



參照

●鐵道會議議長議員及臨時議員旅費支給規則

(明治二十五年十二月)  
(勅令第百九號)

朕鐵道會議議長議員及臨時議員旅費支給規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道會議議長議員及臨時議員旅費支給規則

第一條 鐵道會議議長議員及臨時議員ノ旅費ハ別表定ムル所ニ從ヒ之ヲ支給ス但東京滞在中心ハ日當ヲ支給セズ  
第二條 召集ニ應ジ上京シ及閉會ニ依リ歸郷スル者ノ旅費ハ其何地ニ在ルヲ問ハス住居地ヨリ直路ノ里程ヲ計算シ之ヲ支給ス但東京ヲ距ル三里以內ノ地ニ住居スル者ハ旅費ヲ支給セズ  
第三條 前條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スルカ否メ其日數ヲ計算スルニハ內國旅費規則第十三條ニ準據スヘシ  
第四條 上京旅費ハ著京ノ後歸郷旅費ハ鐵道會議閉會ノ際ニ之ヲ支給ス  
第五條 官吏又ハ帝國會議議員ニシテ鐵道會議議長議員若クハ臨時議員タルモノ所屬官廳又ハ帝國議會ヨリ旅費ヲ受取り又ハ受取ルヘキ場合ハ別ニ旅費ヲ支給セズ

第六條 內國旅費規則(第四條)ニ據リ官船若クハ各廳ニ於テ借入傭入ノ船舶ニ乘込ミ出張スル場合ニ於テ官ヨリ贈ヲナサハルトキハ一日食卓料金壹圓參拾錢ヲ支給ス  
第七條 鐵道會議議長議員及臨時議員ノ旅費ニ關スル規程ハ本則ニ定ムル外總テ內國旅費規則ニ準據スヘシ  
(別表)

| 旅費額 |    |      |     |
|-----|----|------|-----|
| 汽車  | 汽船 | 海馬   | 一日當 |
| 二哩  | 二付 | 二付   | 里   |
| 五錢  | 六錢 | 二十五錢 | 三圓  |



陸普第 三一六九



官房第二四二號

明治四十二年七月十九日

海軍大臣男爵齋藤實



陸軍大臣子爵寺内正毅



内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

臨時軍用氣球研究會官制々定相成ル  
 樣致度別紙勅令按並、理由書ヲ具  
 シ茲ニ閣議ヲ請フ



勅令按

朕臨時軍用氣球研究會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年七月三十日

内閣總理大臣

陸軍大臣

海軍大臣

勅令第三十七號

臨時軍用氣球研究會官制

第一條 臨時軍用氣球研究會ハ陸軍大臣、及海軍大臣監督ニ屬シ氣球及飛行機ニ關スル諸般ノ研究ヲ行フ

第二條 臨時軍用氣球研究會ハ會長一人、委員二



十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ本職アル陸軍將官

之ニ列記スル者ノ中ヨリ之ヲ命ス

陸海軍佐尉官及海軍機關佐尉官

本職アル海軍造船造兵官

陸海軍技師

帝國大學、文部省、及、理科大學、教授及助教授

中央氣象臺技師

氣球及飛行機ニ關スル學術ニ堪能ナル者

第三條 會長及委員ハ陸軍大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之

ヲ命ス

第四條 會長ハ會務ヲ整理シ會ノ研究決定シ

タル事項ヲ陸軍大臣ニ報告ス

會長故障アルトキハ陸軍大臣ノ指名シタル委員其ノ事務

ヲ代理ス

第五條 臨時軍用氣球研究會ニ幹事一人ヲ置ク陸軍佐尉官タル委員ノ中ヨリ會長之ヲ命ス

第六條 臨時軍用氣球研究會ハ豫メ研究方針ヲ

定メ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 臨時軍用氣球研究會ハ氣球隊長ノ承認ヲ受クハニ屬ス

ル諸材料ヲ使用スルコトヲ得

第八條 委員ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第九條 臨時軍用氣球研究會ニ書記三人以内ヲ置キ陸軍屬

ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長及幹事ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十條 委員ニハ鐵道會議議長議員及臨時議員旅費支給



十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ本職アル陸軍將官

、之ニ充テ、委員ハ左ニ列記スル者ノ中ヨリ之ヲ命ス

本職アル陸海軍佐尉官及海軍機關佐尉官

本職アル海軍造船兵官

陸海軍技師

帝國大學、農、工、理、科、大、學、及、理、科、大、學、教授及助教授

中央氣象臺技師

氣球及飛行機ニ關スル學術ニ堪能ナル者

第三條 會長及委員ハ陸軍大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之

ヲ命ス

第四條 會長ハ會務ヲ總理シ議事ヲ整理シ會ノ研究決定シタル事項ヲ<sub>ニ</sub>報告ス

會長故障アルトキハ陸軍大臣ノ指名シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第五條 臨時軍用氣球研究會ニ幹事一人ヲ置ク陸軍佐尉官タル委員ノ中ヨリ會長之ヲ命ス

第六條 臨時軍用氣球研究會ハ豫メ研究方針、議事規則ヲ

定メ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 臨時軍用氣球研究會ハ氣球隊長ノ承認ヲ受クハニ屬ス

ル諸材料ヲ使用スルコトヲ得

第八條 委員ニハ<sub>若シ</sub>手當ヲ給スルコトヲ得

第九條 臨時軍用氣球研究會ニ書記三人以内ヲ置キ陸軍屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 書記ハ會長及幹事ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第十一條 委員ニハ鐵道會議議長議員及臨時議員旅費支給



規則ノ例ニ依リ旅費ヲ給シ其ノ會議ノ爲特ニ上京シタル  
者ニハ開會中三圓以内ノ日當ヲ給ス

附則

本令ハ公布ノ年、月、日ヨリ之ヲ施行ス

理由

軍用輕氣球ハ目下歐米諸國ニ於テ大ニ研究シツツアル所  
ニシテ特ニ遊動氣球及飛行機ニ在リテハ陸海軍共ニ其ノ  
作戰ニ關係スル所頗ル大ナリ然ルニ其ノ研究タルヤ一朝  
一夕ニシテ之ヲ遂ケ難ク其ノ學術ニ堪能ナル者ヲ集メテ  
研究審議スヘキモノ多キカ故ニ本研究會ヲ組織シ世運ニ  
遅レサル如ク速ニ之カ研究ニ着手スルノ必要ヲ認メタル  
ニ由ル